

# 林業をスマートに

## 県や信大 協議会が発足会議

小型無人機ドローンなどを活用した効率的な林業を目指すと、今年二月に設立した産官学協議会「スマート林業タスクフォースNAGANO」は十四日、南箕輪村の信州大農学部で発足会議を開いた。本年度の事業説明や、最新のスマート林業の事例紹介などがあった。

協議会は同大や県、市町村、林業団体、企業など四十の組織で構成。会長を務める同大の加藤正人教授(森林計測学)の研究や技術を活用し、県内の林業を成長産業に育て、持続的な森林管理を図っていく。

この日は、協議会の本年度事業を事務局の県担当課が説



ドローンを使った森林調査の実演を見る参加者＝南箕輪村の信州大農学部で

## ドローン活用など実証

明。県内全域の森でドローンを飛ばし、木の本数や位置、高さなどを詳細に把握する調査を伊那市など九地域で実施するほか、各地域の木材生産量をインターネット上で共有し、効率的な運送を可能にするシステムの構築などに取り組みという。

このほか、スマート林業の普及を目指す企業四社が県内での実践例や最新技術などを紹介。加藤教授は特別講演として、北欧など世界でのスマート林業の取り組みを解説した。構内の演習林近くで実際にドローンを飛ばし、森林調査の実演もした。

加藤教授は「県内は大学の研究をすぐに現場で検証、活用できる恵まれた環境にある。林業を省力化する技術が県内全域に広がるきっかけになればいい」と話した。

(岩田忠士)